がんばろう 南三陸町

復興第88号

発 行 所

千葉総合印刷株式会社

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84 TEL(46) 3069 FAX(46)3068 企画・編集

志津川広報センター

南三陸町「復興祈念公園」一部開園

令和元年12月17日



1分間の黙祷から、南三陸町震災復興祈念公 園の「名簿安置の碑」並びに「復興祈念のテラス」 の除幕式が、小雨模様の中で開催された。

佐藤仁町長の式辞では、「平成の時代、最大の 災害となりました。」「普通の一日から千年に1

テラスからは防災庁舎と さんさん商店街を望む

度と言う災 害を経験し 3203 目、 平坦な道で はなく苦悩 の日々があ りました。」 「様々な思い が胸に去来

「復興祈念のテラス」メッセージ 小学1年生だったあの日、この目で見たものは まだ私の中に鮮明に生き続けている。

どうかこの町が、大好きだったあの日のように 活気と人々の笑顔であふれる町に

なりますように。 西條瑠奈さん する。」「礎は亡くなった方々の元にある。」「町 の未来を想像していただきたい。」と語った。

名簿の安置には、620 名の亡くなった方と 210 名の不明者合計 830 名がおりますが、遺族 の了解が得られた「804人」の犠牲者の名前が 記された名簿が納められている。

三浦清人議会議長は「8年9ヵ月、当時の惨 状が脳裏に浮かびます。」「追悼の場を1日も早く、 手を合わせる場所をと、遺族の声に応える事が できました。」「全国の支援の方々のご意向に応え、 後世に伝えていかなければならない。」と話した。

感謝状の 贈呈では、 一般社団法 人全国優良 石材の会が 「津波記憶石 プロジェク ト」に取り



組まれ、名簿安置の碑の整備に関し、石材や加

した。株式会 社サンテック は、犠牲者名 簿を安置する 気密性に優れ た収納庫を寄 贈してくれた。



「記憶の広場・メモリアルレリーフ」 失われたまちや人々の記憶を風化されることなく 後世に伝えるため、

東日本大震災発生の志津川地区の地図を

石版に刻んだレリーフを園路が交わる公園中心に配置し、 記憶の広場とします。

「名簿安置の碑」への碑文・メッセージは応募 作品の中から、南三陸町の鈴木清美さんが選ば れた。挨拶では「南三陸町に生きて63年が経ち ました。」碑文の碧は「普通の青ではなく、紺碧(こ んぺき)の碧」を使った。「多くの御霊は 私は 海にいると思います。」愛するあなたへの思いの 中には、たまたま南三陸町に来ていて亡くなっ た 48 名の方々もおります。鈴木さんは震災語り 部となり、来町してくださる皆様に町の大津波 の姿と、防災意識の必要性を語りつないでいる。

西條瑠奈さんは、「復興祈念のテラス」のメッ セージに、これからの南三陸町の未来への希望



を綴った。挨拶の 中で「この式典に 立った時、複雑な 気持ちがこみ上げ てきます。」と、 小学1年生の時に 被災し、幼いなが らも一歩ずつ再建

がされた自分の町の姿を見て、素直な気持ちを 述べてくれた。

旧防災庁舎は、県での20年の所有となり今後 どうするかが、町民と議会で議論がなされる。 公園内の鉄骨の防災庁舎で、職員など43人が犠 性となり、復興祈念公園の整備のために3年前 から立ち入り禁止となっている。

今回の「築山」の完成により一部開園となり、 被災した防災庁舎の屋上までもが近くで見える 状況となった。

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

令和元年(2019年) ~ 地元報道より

8月の出来事

■南三陸町■

- ◆南三陸町生涯学習センターで、25 日まで夏休 み工作資料展が開かれている。夏休み中の子供 たちのために図書館が毎年企画し、職員が手作 りした約50点が展示されている。
- ◆30 日、国道 45 号線沿いで南三陸署と気仙沼 署が合同で「気仙沼・南三陸交通事故防止タッ グ作戦」を展開し、安全運転を呼び掛けた。
- ◆1日、女川×南三陸キャッシュレスキャンペー ンが始まった。月末までの1ヵ月間で、初日は 南三陸さんさん商店街でPRキャンペーンが行 なわれた。
- ◆南三陸町入谷桜葉沢の菅原民子さん(72) が少年補導栄誉金賞を受賞した。30 年以上 にわたり、少年補導員を務めた。南三陸署管 内からは初めての受賞。
- ◆南三陸町歌津の直売所「みなさん館」が大幅 にリニューアルし、「みなみさんりく発掘ミュー

ジアム」として、3日にオープンした。

- ◆南三陸町のミズダコ漁が不漁に見舞われてい る。7、8月は1年で最も水揚げが活発になる 時期だが、数量・金額とも昨年をさらに下回る。
- ◆志津川高校からインターハイに出場する陸上 女子棒高跳びの三浦真衣選手(3年)の走行会が、 南三陸プラザで行なわれた。OB・OG・学校関係 者・現役員ら約30人が出席した。
- ◆4日、歌津地区のハマーレ歌津で、歌津夏祭 りが開かれた。町内外からの家族連れなどでに ぎわい、千発の打ち上げ花火がフィナーレを盛 り上げた。
- ◆東日本大震災で被災した松原公園の復旧工 事が進められていたが、遊具広場が完成した。 陸上競技場(300メートトラック)と野球場 は9月の供用開始予定。
- ◆6日南三陸町を、渡辺博道復興大臣が訪れ、 復興状況を視察した。昨年10月以来の2度目で、 結の里と生涯学習センターも訪れた。
- ◆南三陸町と友好町を結んでいる山形県庄内町 の小学生 32 人が参加し、南三陸町に7日から滞 在し、地元の小学生と交流した。
- ◆お盆を前に、南三陸町内の農家では仏壇や墓 前に供えるキクの出荷がピークを迎えている。 農家にとっては彼岸と並んで忙しい時期、出荷 のピークは 13 日の盆入り。

- ◆南三陸町荒島・楽天パークに8日、木製メリー ゴーランドが期間限定で登場した。自転車をこ いで動かすもので、小学生の力でもこげるよう になっている。
- ◆徳島県徳島市で、7月31日から開かれた 全国少年消防クラブ交流大会で、志津川中学 校少年防災クラブが総合2位に入った。
- ◆11 日歌津田の浦漁港で「海の大運動会」が開 かれた。今回で7回目となり、地域住民やボラ ンティアら約 200 人が参加した。
- ◆2018 年の観光客入り込数が、17 年の入 り込数を上回った。17年の入り込数は約 142 万 5 千人で、18 年は1万9千人の増加 となった。
- ◆南三陸町内の小・中学校で、エアコン設置工 事が本格化している。全体の完了は10月を見込 んでいる。
- ◆「子どもの心ケアハウス」と適応指導教室 「はまゆり教室」が、オーストラリア友好学 習館(コアラ館)に移転した。個別の事情を 抱えた子供たちにも配慮しながら対応でき、 1 戸建てなので人目を気にすることなく利用 できる。

(前ページよりの続き)

- ◆19 日「南三陸少年少女自然調査隊」の子供た ちが、サンオーレそではま海水浴場でシュノー ケリングを体験した。南三陸・海のビジターセ ンター、自然環境活用センターの職員らが付き 添いシュノーケルや足ヒレなどの装着方法、使 い方を学んだ。
- ◆18 日南三陸ビーチバレーボール大会が、志津 川のサンオーレそではま海水浴場で開かれた。 町内外から9チームが出場し、炎天下の砂浜で 熱戦を繰り広げた。
 - ◆20 日、難病の筋委縮性側索硬化症 (ALS) を患っている千葉県八千代市の医師太田守武 さん(48)が、南三陸町歌津地区の災害公 営住宅を訪れた。

太田さんは震災直後には、がれき撤去など のボランティアに入った。2014 年3月AL Sと診断された。住民の健康相談に応じ、「来 年もまた来ますからね」と、住民を優しく励 ました。

- ◆志津川ミニバスケットボールスポーツ少年団 男子が、県ミニバスケットボール交歓大会で、 初出場で決勝トーナメントまで進んだ。予選を 勝ち上がって県大会に出場したのは、1993年の チーム創立以来初めてのこと。
- ◆20 日志津川高校の魅力向上を目指す「南三陸 町高校魅力化協議会」が発足した。20 年度から 5年間を期間とする「第1期志津川高校魅力化 構想」を取りまとめる。
 - ◆小学生から高校生までがパソコンのスキル や表現力を競う「子どもみらいグランプリ 2019」で、戸倉小2年の及川莉愛さんが入 力部門1・2年生の部で優勝した。
- ◆南三陸町内で運行している南三陸乗り合い バスで、フリー乗降区間を9月 30 日から来 年3月まで戸倉地区で実施する。結果を見て 本格運行に移行する計画。
- ◆山形県鶴岡市の有志らによる「交流フェステ バル」が、ハマーレ歌津で24日開かれた。県内

- 外の出演団体が披露するステージを楽しみなが ら、住民が楽しいひとときを過ごした。
- ◆24 日志津川湾かがり火まつり福興市が、サン オーレそではま海水浴場で行なわれ、かがり火 が幻想的な雰囲気をつくりだした。クライマッ クスは三河手筒花火で、大迫力の火柱が観客を 楽しませた。
- ◆プロ野球イースタン・リーグ「東北楽天 読売ジャイアンツ」の公式戦が平成の森 球場で 25 日行なわれ、約 2700 人の観客が 声援を送ってプロのプレーを楽しんだ。
- ◆戸倉地区にあった自然環境活用センターが被 災したため、戸倉公民館の一部を改修し、実験 室や飼育室などの整備を進めている。来年1月 の供用を目指している。
- ◆南三陸町志津川の無職首藤史明容疑者が奥州 署に、詐欺未遂の疑いで現行犯逮捕された。警 察官になりすまし、奥州市内の男性からキャシュ カードをだまし取ろうとした疑い。

南三陸町人口の推移

(令和元年 11 月末現在)

	南三陸町	志津川	戸倉	入谷	歌津
22年3月	17,815	8,294	2,433	1,907	5,181
30年11月	12,999	5,331	1,424	1,954	4,290
元年11月	12,709	5,164	1,388	1,945	4,212
30年11月からの 増 減 数	-290	-167	-36	-9	-78
元年10月からの 増 減 数	-23	-11	-2	2	-12
世帯数	4514	2038	470	656	1350

戸倉かき生産組合「天皇杯」に輝く

この度、宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉

出張所の『戸倉かき生産部会』は、震災後から

漁場及び資源の適正管理、漁業者の労働環境の

改善に貢献され、平成 28 年にはASC(水産養

殖管理協議会)国際認証を取得するなど、水産

業の振興発展に寄与してきたことが評価され、

11 月 14 日に開催された第 58 回農林水産祭に

湾から世界の志津川湾の1つのモデルとなる。」

「後継者の育成、水産業の育成に努めてまいりま

三浦議長は「壊滅した南三陸町の漁業は皆さ

んのご苦労のもと再生された。」「後継者と漁業

への熱い思いが後世に繋がり、より一層の環境

づくりに議会をあげて支援していく。」と話した。

小野寺五典衆議院議員は、「袖浜の志津川・戸

挨拶では志津川支所運営委員長佐々木孝男さ

おいて栄えある「天皇杯」を受賞しました。

ふっくらと大きい 1年カキ

す。」と語った。

(2019年12月の新聞記事より)

12月 14日記念祝賀会

祝辞で佐藤町長は、

・11 月の出生4人、死亡は24人

倉海浜センターが私の仕事の場所としての始ま りです。」「一年でカキが育つ、それを聴き驚い ている。」「森林でも国際認証も受けた、素晴ら しい土地であります。」と述べた。

戸倉かき部会の後藤清広部会代表は、「ボラン ティア、県などかき部会は皆様のご支援を受け、 新しい事にチャレンジするワンチームとして、 頑張っていきたい。」と受賞と祝賀会の開催への 感謝を述べた。



◎持続可能で高品質なマガキの養殖生産の取り

(震災前の漁場実態)

- ・養殖施設数 3,000 台(マガキ 1,100 台)
- ・実入りが悪く出荷サイズ(10g前後まで)
- ・品質低下
- ・養殖施設の間隔は5m~15m

(震災後の漁場実態)

- ・養殖施設台数の削減
- ・漁場の管理維持するポイント制導入
- ・養殖施設の間隔を約 40mに拡大
- ・施設台数を 1/3 までに削減

商業・工業・サービス部会

んが「大震災から皆さんと共に歩んできました。」 「作り育てる漁業へと、子から孫へまで伝えてい 令和元年 11 月 28 日南 かなくてはならない。」「これからもカキ養殖が 三陸プラザで、町と商工 できるよう努力していきたい。」と、令和元年度 会の懇談会が開催され、 第 58 回の農林水産祭での天皇賞受賞にあたり、 併せて地域おこし協力隊 新たな気持ちで南三陸町の漁業に取り組む事を の取り組みの発表を二氏 誓った。

祝辞では佐藤町長が「働 く人材確保に、高校生を 雇用の企業に1人30万 円の制度を変え補助金を 出す」「来年の秋には復興 祈念公園の全面開園」な ど地元の事業所を支援し

商工会の山内会長は「産 業経済の発展」「産業ビ ジョンの設定」「住民の活 力の充実」「交流人口拡大 での外貨の獲得」など、 産業の多様化への要望を

各部会からの町への要望として、●商業部会は 「町有地を活用して集客の場をつくってほしい。」 「町内のインフラ整備、情報発信」を求めた。

- ●サービス業部会は「人口数の十年後の状況」「災 害公営住宅の入居者の 30%が高齢者であり、そ の維持管理費は」「企業誘致や各大学の学部誘致」 など。
- ●工業部会では「外国人労働者受け入れに助成 金と誘致の支援」「防集の空地の利活用を」「町 と防災協定を結んでいる企業・団体の周知」な どを、町の対応について質問した。町側では、 町長はじめ各担当課長がその説明をした。



山内会長は現在建設が進む「新商工会館」に ついて、令和2年2月の完成に向け工事中であ ると語った。

(地域おこし協力隊の活動報告は次号へ)

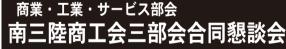
千葉賢一絵画展(第2回)

1月 18日(土)午前 10時~午後2時 志津川本浜志津川広報プラザにて (志津川駅の海側隣)

利き手が病気で使えなくなってから、左手 で絵筆を持ち、100点以上も描き続けた(千 葉印刷の長男)。

長野の支援ねぎ(10束のみ)来場者プレゼント

コーヒーコーナーあります。フリマあり、 売上は台風被害のお見舞いにさせて頂きます。



かおこなった。 「水産部門最高位の天 皇杯、持続可能な水産 業へ産業振興を進めて きた。」「壊滅的な水産 業の再生に取り組んで きた。」「日本の志津川

ていくと語った。 求めた。



